

# 桃李の里



福島市立中野小学校

## 学校だより

発行：校長 益子

朗

### 書きぞめ「席書き」に挑戦!

今年はおぼしつ子たちに「自己実現力」を身に付けさせたいと申しました。が、言ったばかりでは絵に描いた餅になりかねません。有言実行という事で、第一弾として「書きぞめ」の「席書き」に挑戦しました。家でいくらかでも練習して構わないのです。が、県の書きぞめ展に出す作品は、みんな一斉に学校で書くという取り組みです。出さずには、家で時間をかけて作品を出した方がよいかもしれません。今年はこの方法に挑戦してみたい。賛否両論あると思いますが、さういふ。どうかご意見をお寄せください。

本番の「席書き」では、みんな集中して真剣に取り組んでくれました。校長が書写の授業を始めようとした。3・4年生の教室に入ったら全員がお習字道具を用意して正座して待っていました。その気迫に、こちらが圧倒されるほどでした。これなら「自己実現力」もきっと身につく。3・4年生では早く終えた子が教室の片付けを率先してやってくれました。また5・6年生では、



休み時間に発育測定が予定されてきた。男子が保健室に早く行けるように、男子が机を並べ直したりしてくれました。どちらか誰に頼まなくていい行動で、自分たちで考えてお1・2年生の硬筆に指導方法を助言してくださいます。その効果はきつくと表れるでしょう。

は、本間先生が書きぞめ教室の後、岡先生を見て来てください。担任の先生にいろいろ指導方法を

### たくさんの方の年賀状

ありがとうございます。右の写真はおぼしつ子の皆さんからいただいた年賀状で、校長室に掲示してあります。それぞれ素晴らしい年賀状です。中でも一生懸命自分で絵を描いてくれたものや、家族と楽しそうに写ったものには、読んで思わず笑顔になりました。読んでは、最近若者を中心に年賀状を書く人が減っている、メールで済ませる人が増えていっている、味があるが、やはちが年賀状には、味がある、気持ちす。おぼしつ子の皆さん、どうもありがとうございます。



**お知らせ**  
1月29日(金)に実施予定の「雪のつどい」ですが、もし当日荒天で実施できない場合、1週間後の2月5日(金)を予備日とさせていただきます。5日に予定されていた校内なわとび大会を4日(木)に移しました。学校の延期の可能性は少ないです。が、自然相手のことですので、最近の天候不順で予備日を設定しました。念のため予備日を設定しました。

### 校長のつぶやき



というものがありません。昔の寄席で、「中入り」(出し物の中間での休憩)の時に、その日のトリを務める真打ちが挨拶のため高座に登り、お客さんから三つの言葉を織り込んで演じるというものです。約束事は次の二つだけです。

- 三つのお題は「人物」・「品物」・「場所」とすること。
- このうちの一つを、必ず「さげ(オチ)」に使うこと。

これは真打ちといえども難しい芸で、明治時代に活躍した三遊亭圓生や、戦後では桂文楽など、よほどの大名人でないとなかなかやれなかったそうです。いけば並み横綱ではなく、大横綱ではないので、芝居や「蹴沢」、「大仏餅」などの演目は、そのまま古典落語の定番として、後進の寄家によって継承されています。

これが「自己実現力」でしょう。寄家が自分の想像力、創作力、そして表現力のすべてを最大限に発揮してこそ、三題噺は成功するのです。そのためには、その時だけ頑張り、そのためには、日頃から稽古を積んで芸を磨く、いろいろな世間に目を向けたり、いろいろ(左ページに続く)

毎度古い話で恐縮ですが、一席おつきあいをお願いします。落語に、「三題噺」

1年生

たのしいたこあげ  
 たのしいたこあげ  
 たのしいたこあげ  
 たのしいたこあげ  
 たのしいたこあげ  
 たのしいたこあげ  
 たのしいたこあげ  
 たのしいたこあげ

2年生

大きなぼたん雪  
 大きなぼたん雪  
 大きなぼたん雪  
 大きなぼたん雪  
 大きなぼたん雪  
 大きなぼたん雪  
 大きなぼたん雪  
 大きなぼたん雪

3年生

さる年  
 さる年  
 さる年  
 さる年  
 さる年  
 さる年  
 さる年  
 さる年

4年生

美しい光  
 美しい光  
 美しい光  
 美しい光  
 美しい光  
 美しい光  
 美しい光  
 美しい光

5年生

春の足音  
 春の足音  
 春の足音  
 春の足音  
 春の足音  
 春の足音  
 春の足音  
 春の足音

6年生

希望の朝  
 希望の朝  
 希望の朝  
 希望の朝  
 希望の朝  
 希望の朝  
 希望の朝  
 希望の朝



(右ページより)  
 る世の中の出来事にアンテナを高くしていなければなりません。

あり、観に行きました。それから1ヶ月もしないうち白河市の実家に帰省したら、たまたまそこでも円楽師匠の独演会がありました。驚いたのは、この2回の独演会で、演目もアレンジも全く違ったのです。大学生相手の時と、田舎町の、どちらかと言えば年配者が多い時とでは、話し方も内容も変えて、自在に演じられたのです。そしてそのどちらの演目も、とても素晴らしい出来でした。さすがは素晴らしい出来でした。さすがは当人の落語会です。二と言われた名人芸でした。

全校集会などでこぶしっ子の皆さんにお話をすると、1年生から6年生まで、みんなにわかりやすい内容にするにはどうするか、いろいろ考えます。できるだけ夕イムリーな話をしようとは心がけますが、とても三題嚢を作った名人や円楽師匠のようにはいきません。

校長でもお話しはいい調子で、お後がよろしいようです。

